

# ハタハタ資源対策協議会資料

## 1 秋田県のハタハタ漁獲量

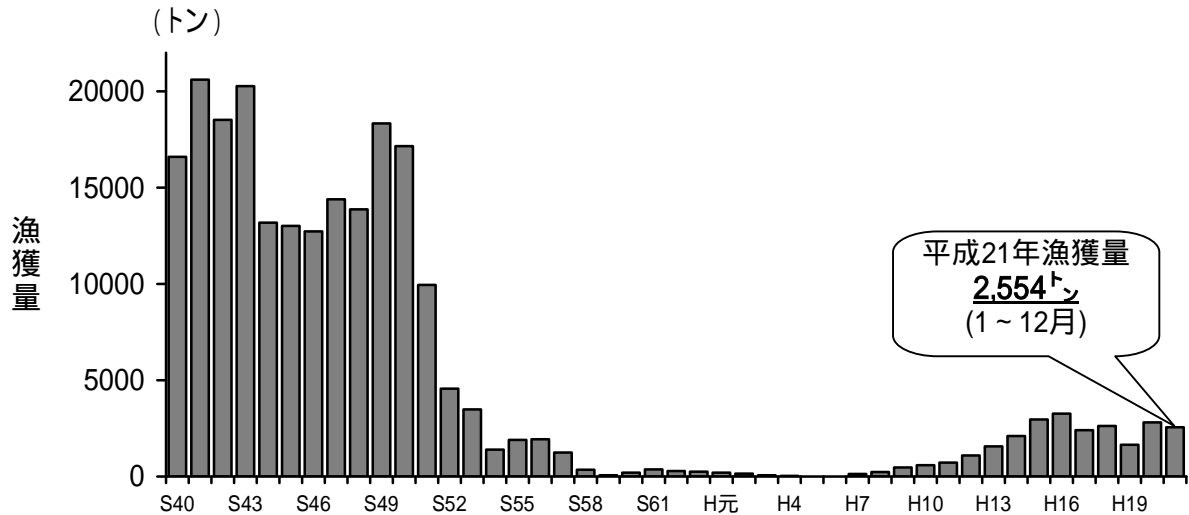


図1 秋田県のハタハタ漁獲量

(平成20年までは農林水産統計年報、H21年は水産漁港課調べ)

H21年1～12月の漁獲量は2,554トンで、前年比(2,806トン) 91%となった。

## 2 日本海北部4県の漁獲量の推移

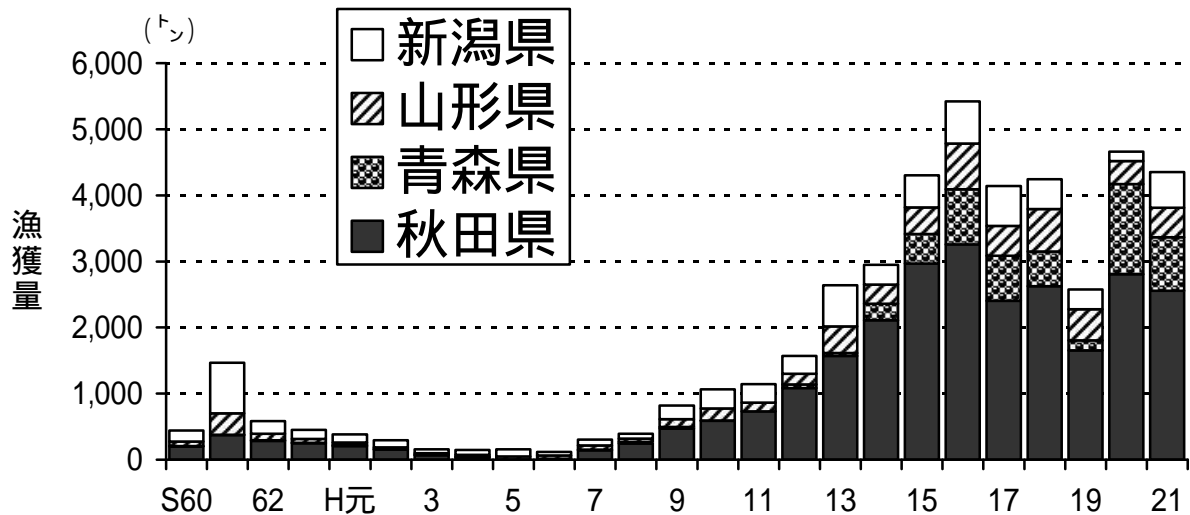


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

今漁期の4県漁獲量は4,353トンで、前年比(4,660トン) 91%となった。

秋田県の割合は61%で、前年とほぼ同じだった。

県別には秋田2,554トン(前年比0.9倍)、青森813トン(＼0.6倍)、山形446トン(＼1.3倍)、新潟541トン(＼3.9倍)であり、山形・新潟でやや増加、秋田・青森でやや減少した。

## 3 漁獲枠と漁獲実績

表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

年	沖合			沿岸			合計		
	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	53	63	85	89	104	170	142	84
8年	110	81	74	110	157	143	220	238	108
9年	180	139	77	180	288	160	360	427	119
10年	300	162	54	300	436	145	600	597	100
11年	400	142	36	600	537	89	1,000	679	68
12年	400	265	66	600	886	148	1,000	1,151	115
13年	520	506	97	780	958	123	1,300	1,464	113
14年	680	384	56	1,020	1,444	142	1,700	1,828	108
15年	960	907	94	1,440	1,938	135	2,400	2,845	119
16年	1,000	707	73	1,500	2,200	157	2,500	2,906	116
17年	1,000	489	49	1,500	1,864	124	2,500	2,353	94
18年	800	944	118	1,200	1,635	136	2,000	2,579	129
19年	720	847	118	1,080	770	71	1,800	1,618	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,019	112	3,000	2,887	96
21年	1,040	995	96	1,560	1,439	92	2,600	2,434	94

沖合、沿岸とも、平成9年以降は管理漁期(9月～翌6月)のデータ。今漁期は2月末までの値(水産漁港課調べ)

## 4 漁獲量と漁獲金額

表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移(水産漁港課調べ)

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
平成 3年	56	17	72	109,232	53,565	162,797	1,968	3,227	2,258
4年	37	-	37						
平成4年9月～7年9月(禁漁期間)									
7年	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,657	2,704	3,063
8年	86	157	243	224,559	280,367	504,926	2,608	1,784	2,075
9年	129	288	418	220,853	488,958	709,810	1,709	1,696	1,700
10年	142	436	578	186,852	408,545	595,397	1,312	938	1,030
11年	157	537	693	200,717	543,696	744,413	1,281	1,013	1,074
12年	155	886	1,041	153,047	528,471	681,518	986	596	654
13年	445	958	1,404	394,324	594,687	989,012	885	621	705
14年	477	1,444	1,921	308,570	496,039	804,609	647	343	419
15年	959	1,938	2,896	458,570	589,328	1,047,898	478	304	362
16年	699	2,200	2,899	274,515	584,058	858,573	392	266	296
17年	489	1,864	2,353	236,348	535,562	771,910	483	287	328
18年	959	1,635	2,595	359,720	433,257	792,978	375	265	306
19年	844	770	1,614	498,319	284,925	783,243	591	370	485
20年	786	2,019	2,805	245,147	327,379	572,526	312	162	204
21年	1,114	1,439	2,553	317,809	283,090	600,899	285	197	235
H21/H3	20.1	86.7	35.4	2.9	5.3	3.7	0.1	0.1	0.1
H21/H20	1.4	0.7	0.9	1.3	0.9	1.0	0.9	1.2	1.2

沖合は暦年、沿岸は管理漁期(9月～翌6月)の合計値。今漁期の沿岸は2月末までの値(水産漁港課調べ)

### 5 沖合・沿岸別漁獲割合

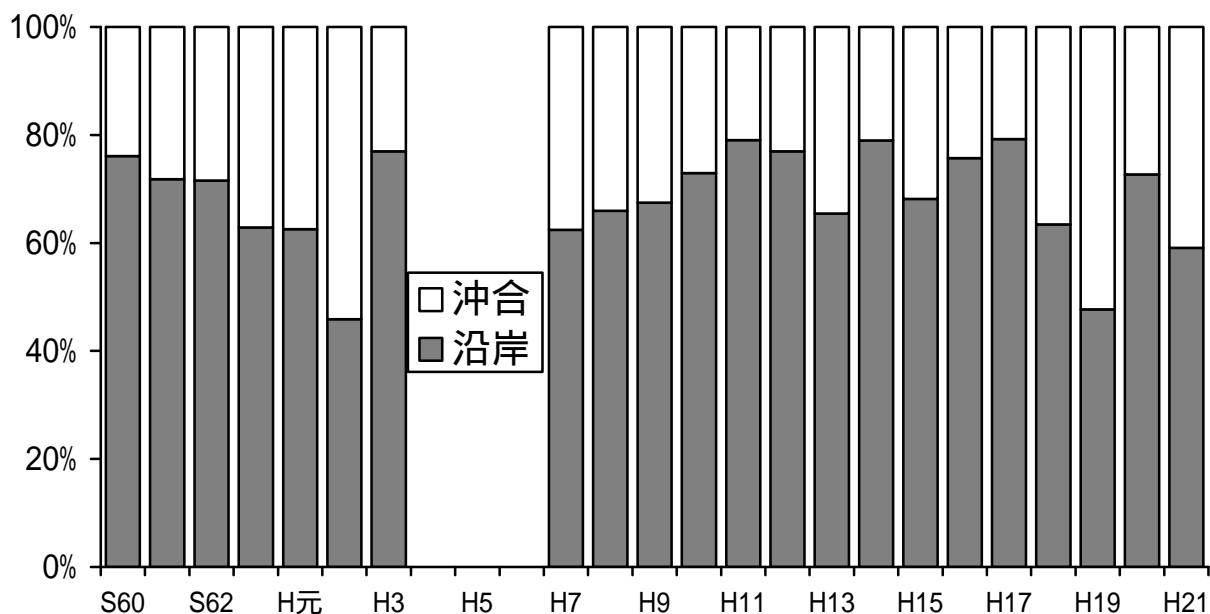


図3 秋田県における、沖合・沿岸別漁獲割合

沖合、沿岸とも管理漁期(9月～翌6月)での漁獲量(水産漁港課調べ)

今漁期は沖合の比率が41%を占め、H19年に次いで高い割合となった。

### 6 漁獲金額と単価

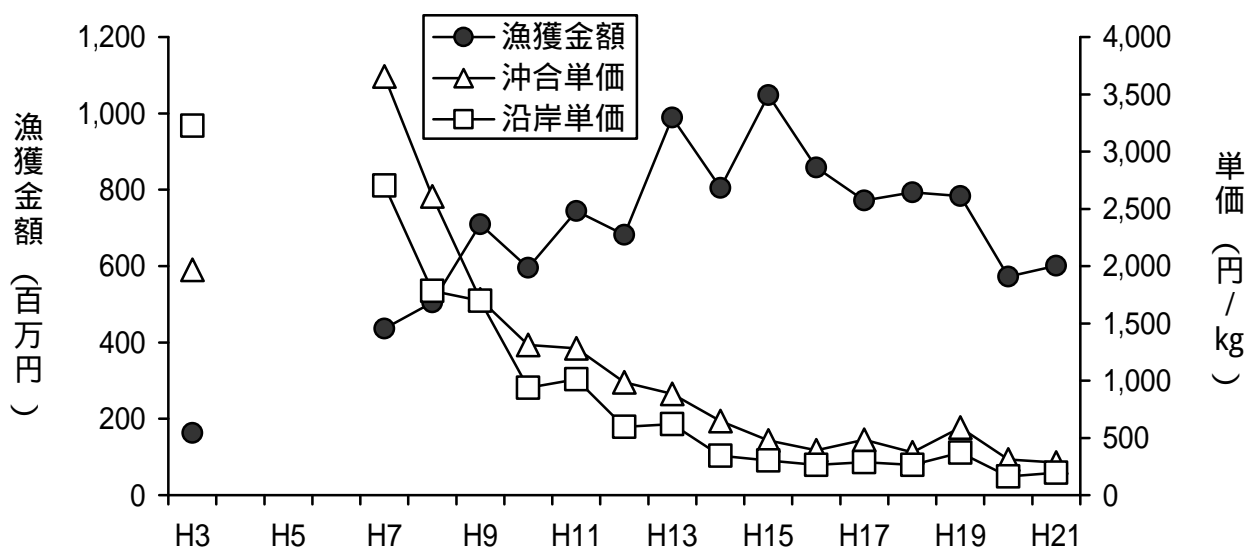


図4 ハタハタの漁獲金額と単価

沖合は暦年、沿岸は管理漁期(9月～翌6月)の値。今漁期の沿岸は1月末までの値(水産漁港課調べ)

今漁期の漁獲金額は6億100万円で、前年(5億7,200万円)に比べ約3千万円増加した。kg単価は、沖合が285円(前年比-27円)、沿岸が197円( "+35円)であり、沖合は解禁後最も低い価格となった。

7 H21年漁期の沖合漁獲量

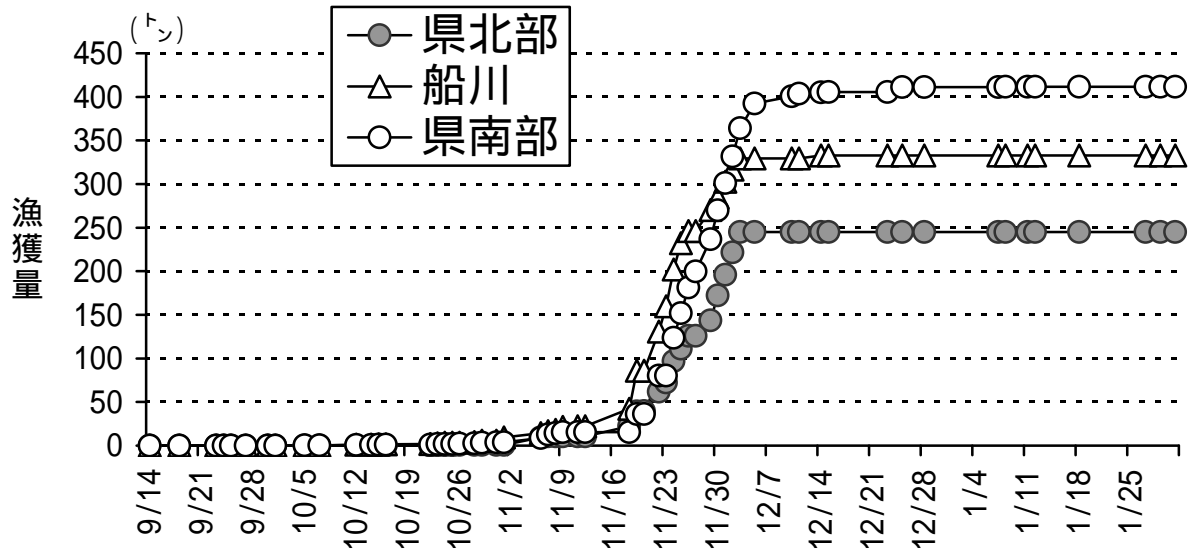


図5 底びき網での地区別・日別漁獲量

北部(岩館・北部総括)、船川(樺・船川総括)、南部(南部総括・象潟・平沢)(水産漁港課調べ)

解禁日は9月11日、初水揚げ日は9月14日だった。

11月中～下旬に全県で漁獲量が急増し、特に県北部では11月末時点で172トン(前年比12倍)に達する豊漁だった。船川と県南部は前年並みだった。

8 前年との比較

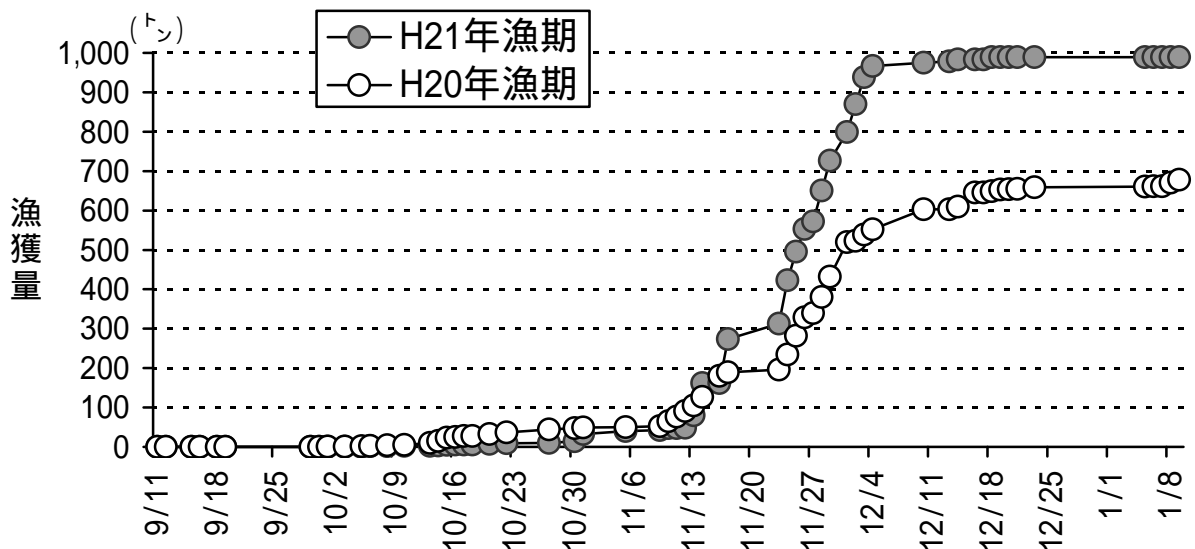


図6 H20、H21年漁期の底びき網による日別漁獲量の推移(全県)

H20年漁期は10月の漁獲量が例年になく多いのが特徴だったが、21年漁期は10月にほとんど漁獲されず、11月中旬から漁獲量が急増して12月初旬に900トン(前年比1.7倍)に達した。

9 H21年漁期の沿岸漁獲量

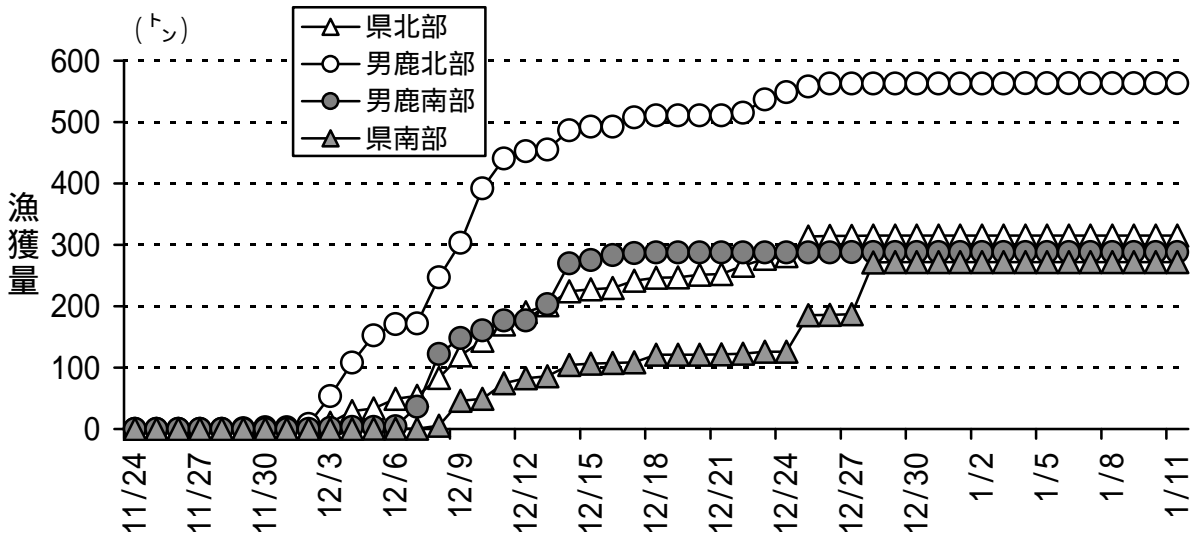


図7 沿岸での地区別・日別漁獲量

県北部(岩館～能代)、男鹿北部(若美～戸賀)、男鹿南部(樺～天王)、県南部(秋田～平沢)  
(水産漁港課調べ)

初漁日は11月24日(北浦地先)だった。

初漁以降は12月上旬まで北浦周辺で僅かに漁獲されたのみで、中旬以降、ようやく全県で漁獲が始まった。

男鹿北部では12月中旬にかけて漁獲量が急増したが、それ以降はほとんど漁獲されなかった。

10 前年との比較

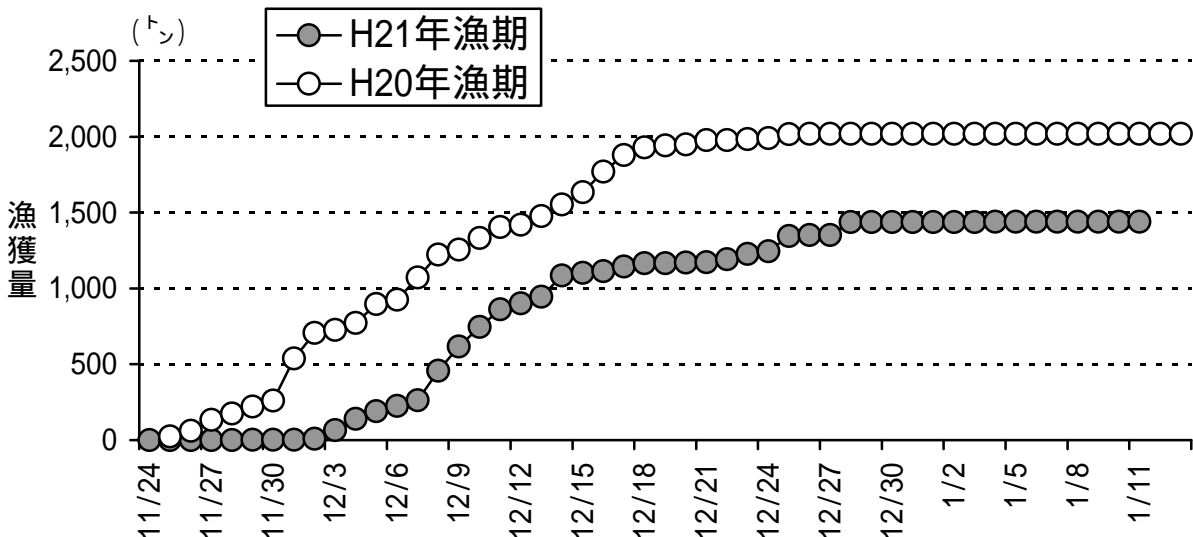


図8 H20、21年漁期の沿岸における日別漁獲量(全県)

H21年漁期の漁獲量は、11月末時点で2.6トン(前年比100分の1)と低調で、12月末時点でも1,438トンと前年比71%に留まった。

11 ハタハタの体長組成

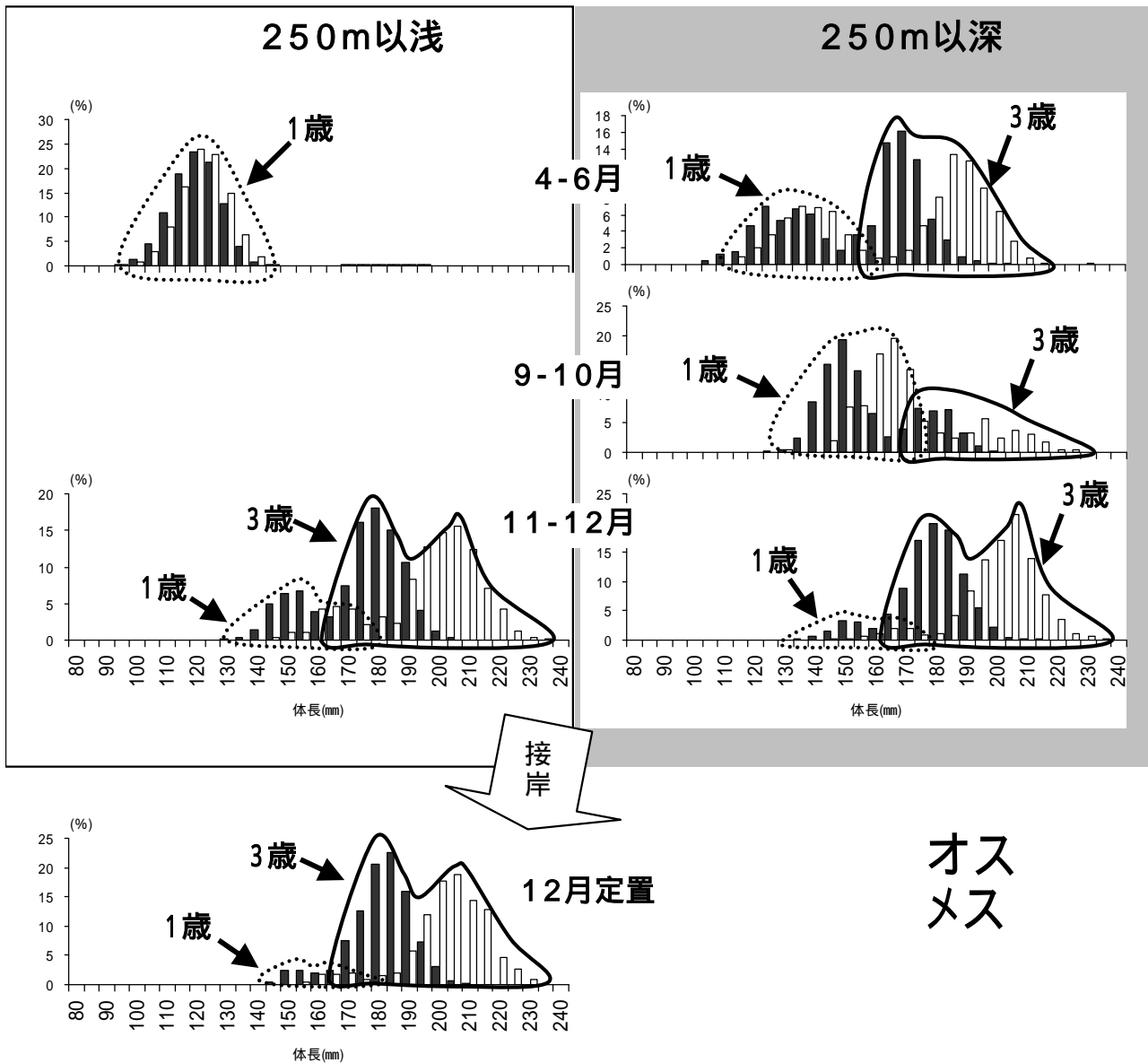


図9 底びき網(千秋丸)と定置網で漁獲されたハタハタの体長組成

H21年漁期は4～5月、水深約250m以浅に1歳(H20年生まれ)が多く分布していた。

秋にかけて分布水深は深くなり、1歳が3歳(H18年生まれ)よりもやや高い割合で分布した。2歳魚(H19年生まれ)の割合は低かった。

11～12月には1歳魚の割合が大きく低下し、沖合、沿岸とも3歳主体の群となった。

2010年漁期の予測は、新潟・山形での漁獲状況に注目

新潟・山形沖で、

小型魚の漁獲量が多ければ、2歳魚(H20年生まれ)の漁獲量が多い。  
大型魚の漁獲が続けば、4歳魚(H18年生まれ)の漁獲もある程度期待できる。

12 ハタハタ卵塊調査(卵塊密度)

表1 ハタハタ卵塊密度(個/m<sup>2</sup>)の推移

地区	定点	調査年(2006年は3月に、他の年は1~2月に実施)															
		1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
岩館	St.1(小入川)						26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.5	14.9	7.2	2.3	1.4	3.0
岩館	St.2(小入川)	9.7	1.2	7.6	7.6	1.5	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	6.4		27.5	86.9	0.9	2.3
岩館	小入川増殖場									17.5	30.3	13.9					
八森	St.1(雄島)	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0						
八森	St.2(二ッ森)	1.7	0.2	1.3			0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	64.6		3.7	1.0	0.4	0.4
八森	St.3(漁協脇)				27.4	39.7	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0	59.2	67.8	57.7	7.7	85.1
八森	St.4(滝ノ間)									53.2	192.8	112.8					
能代	St.1(南防波堤)		0.0	0.5		0.0	0.0										
能代	St.2(発電所取水口)		0.0	3.5	0.0	0.0	12.3	0.0									
能代	St.4(北防波堤)		0.0	0.9	6.0	0.0	6.6	0.0									
北浦	相川St.1	1.5	0.6	2.0	10.2	2.2		1.6	0.2	91.9	0.0						
北浦	相川St.2	2.1	0.6	1.7	6.6	4.4	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.8	3.3	2.8	7.6	5.5	2.6
北浦	相川St.3			1.8													
北浦	相川St.4			2.3													
北浦	八斗崎St.1(0.5m)	1.0	1.4	2.0	0.6	5.3	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	17.7	2.9	4.5	9.6	189.9	137.1
北浦	八斗崎St.2(1.5~2m)	0.1	0.6	3.1	6.3	3.9	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1	13.3	0.5	0.7	0.1	1.5	1.4
北浦	八斗崎St.3(2m)									7.7							
北浦	八斗崎St.4(3m)									17.2	57.2						
北浦	八斗崎St.5(4m)									13.0		87.7	41.1	8.4	4.2	0.0	
北浦	八斗崎St.6(6.5m)										21.6						
野村		0.0	0.5	0.0	0.0	1.8	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	6.9	14.0	10.7	0.9	4.6	21.9
湯の尻	St.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8	2.1	6.1	2.6	42.1	13.6
湯の尻	St.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6	10.0	2.9	7.9	11.0	7.0
戸賀	St.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6	0.1	26.8	17.4	0.1	9.3
戸賀	St.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4	3.2	258.7	67.7	34.2	19.3
戸賀	St.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4	7.6	3.8	32.6	6.9	29.0
台島	St.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6	0.0				
台島	St.2									0.5							
女川	St.1							4.8									
女川	St.2							2.3									
船川	備蓄St.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1.4								
船川	備蓄St.2						1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	72.5	61.6	46.6	263.3	271.2	289.6
船川	金川St.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1	0.0	2.0	4.5	12.9	22.9
船川	金川St.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7	0.0	3.2	8.1	12.6	2.7
平沢	St.1	2.2	0.1	0.3	0.0	9.0	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9		6.5	4.5	4.8	1.4	34.2
平沢	St.2(鯨分港)	0.5	1.5	1.1	9.0	10.4	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	288.7	51.6	102.5	37.5	162.3	1.3
平沢										13.3							
金浦	St.1	0.8		1.1	4.3	0.0	0.0	60.0	0.6								
金浦	St.2(鯨分港沖側防波堤)						8.0	57.0	1.3								
象潟	St.1(小瀬分港)						21.2	1.5	0.0								
象潟	St.2				27.0												

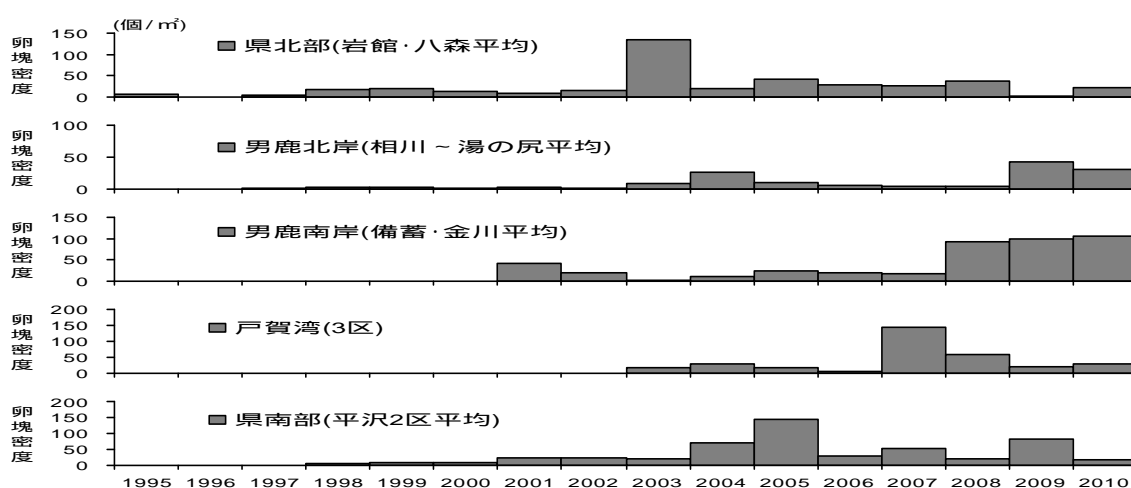
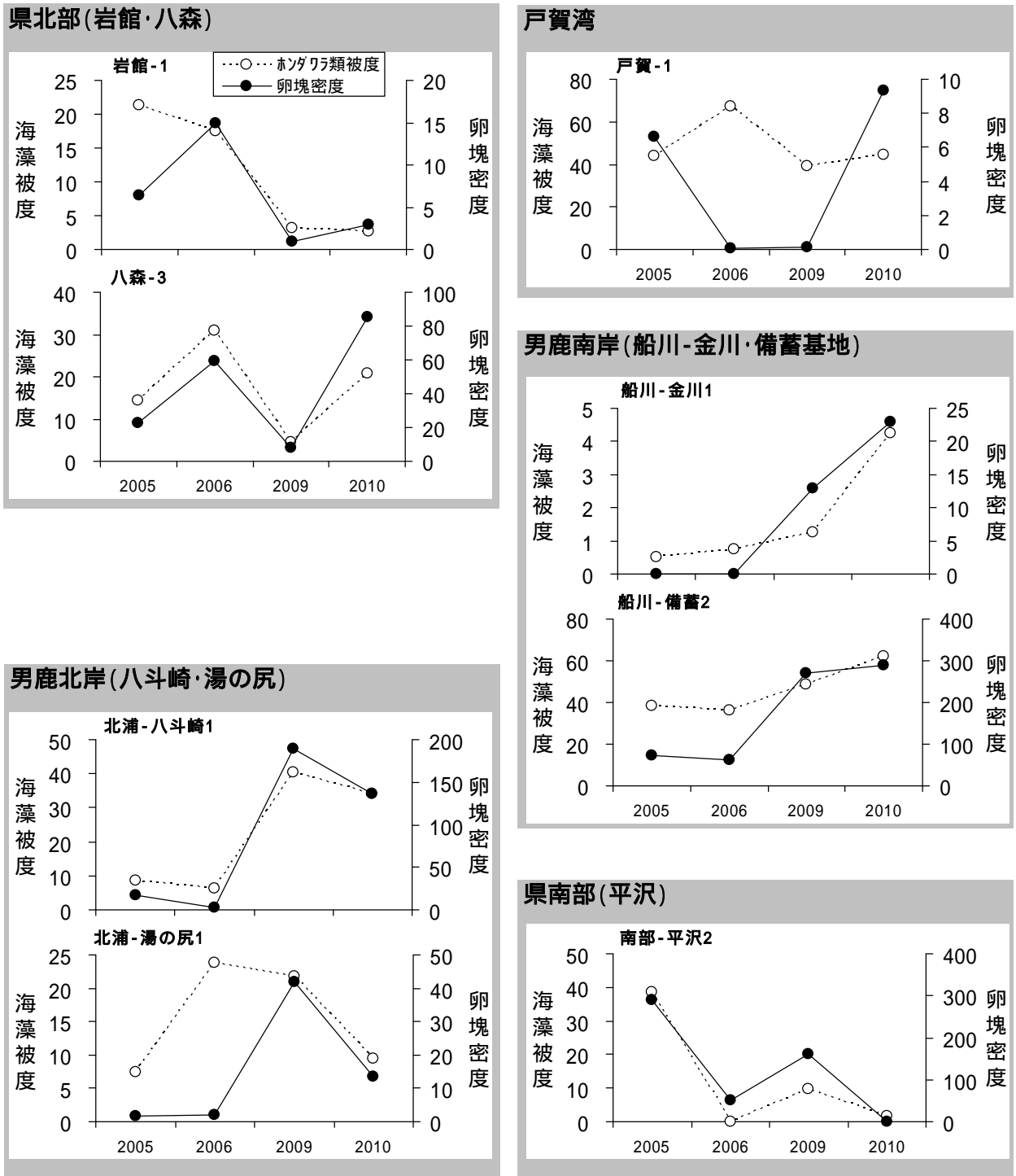


図10 地区別の平均卵塊密度

男鹿南岸では一昨年から、男鹿北岸では昨年から卵塊密度が高い水準で推移している。

岩館、金川(船川)、南部平沢ではホンダワラ類が低密度であり、ホンダワラ類1本に卵塊が集中して生み付けられたり、他の小型海藻に産卵する状況が続いている。

12 ハタハタ卵塊調査(ホンダワラ類被度と卵塊密度)



海藻被度:5m<sup>2</sup>あたりのホンダワラ類被度  
卵塊密度:1m<sup>2</sup>あたりの平均卵塊密度

図11 県内主要箇所のホンダワラ類被度と卵塊密度との関係

H21、22年の結果では、全定点で卵塊密度とホンダワラ類被度の変動傾向がほぼ一致。県北部、北浦八斗崎、船川金川、南部平沢は、ホンダワラ類被度と卵塊密度の変動が密接に関係しており、産卵親魚に対するホンダワラ類の量が不足している状況にある。戸賀湾は海藻被度が安定的に高いが、卵塊密度が非常に低い年もある。すなわち、現状では産卵親魚を十分に収容できる環境である。